

# ゆにおん通信第69号

2013年10月号

発行：日本音楽家ユニオン中国四国地方本部

〒730-0802 広島市東区本光町 2-9-24 ロードビル 202号

TEL & FAX 082-262-2070

発行人：石井和彦

中四国地本が新しくスタートした。運営委員には行動力抜群の松崎氏が退任され新たに上田氏と清澄氏が加わった。皆忙しい。全くのボランティアであり活動に限界があるのは確かだ。本音を言うとななるべく問題が起こらないことを祈るばかりだ。しかし、小さな所帯の中四国地本にもなぜか問題が収まった頃を見計らったように必ず次の問題が持ち上がってくる。とすると～そろそろまた次の出番か？

最近もユニオンが拘った関連の裁判で 17 歳の元音高生の訴えが却下された。訴訟時は 15 歳、ここに辿り着くまで 2 年、しかし最終読み上げは僅か 1 分だった。却下理由は、尊厳を傷つけるような行為があったのは事実だが、教育の範囲内とのことだった。最近問題になっている体罰に比べれば別にたいしたことではないという様子さえ伺えた。記者会見で、現在 17 歳のその女の子はグッと気持ちを抑え涙をこらえ、しばらくしてようやく「くやしいです」と背筋を伸ばし清楚に答えた。

日本の裁判は勝っても負けても 100% というのはほとんどない。双方とも莫大なエネルギーを使い深いダメージを受けてなんとなく終わりだ。そのため今回のように却下されても、ようやく開放されるという安堵感さえ感じてしまう。だからだろう、控訴はやめた。

しかし一体なぜこのようなことになるのだろうか？僕も含め音楽人や教育人は人間関係が疎いのか。裁判では双方とも延々と不毛な時を過ごし、結果多くのものを失う。あのアメリカでさえ、「たとえ勝ったとしても、得るものより失った物の方が大きい。」と言われる。今回の裁判は、人間関係を維持できない大人が教育者として権力を持ってしまった事が始まりだった。豊かな人間関係と口では言うけど、字では読めるけど、基本は「やさしい」と言うことだろう。教育人はもちろん音楽人にとっても一番大事な言葉だろう。だれだってやさしくしてもらいたい。しかしなぜか人には中々それができない。今の音楽ユニオンの理念は「闘争」でないことは確かだ。これからは「やさしい」を理念とできるユニオンでありたい。いつもやさしく闘争をしてくださった松崎さん、長い間本当に有難うございました！

(石井和彦)

## <中四国地方本部代22回定期大会>

中国四国地方本部の第22回定期大会は2013年6月25日広島ロードビル内の会議室にて開催された。出席人数は少なかったが2年間のユニオン活動報告や次回に向けての決議を確認して、充実した大会となった。

—石井代表の開会挨拶に始まり、3.19コンサートやあすなろコンサートの報告があり、続いて広島音楽高校問題の報告もされた。「音楽高校を守る会」は数年間の裁判を終えて最終報告を行い、近々、活動停止の方向である。

—続いて広島交響楽団の報告では継続雇用制度や今年迎える設立50周年の記念行事についての説明があった。財政問題などが山積しているが、近年の広響の活躍は目覚ましく、これからの一層の飛躍が期待されている。

—2012/2013の会計報告と次年度の予算案を確認したが今後益々、財政は厳しくなっていくと思われる。中四国地本は小さいながら事務所もあり、少ない日数ではあるが事務員の方もお願いしている。贅沢と思われるかもしれないが他で節約をしてもこの状況は変えない事が私達の活動の原動力になると思っている。

今回、運営委員の松崎祐一さんが退任し、新たにフリーの上田愛彦さんと広響の清澄貴之さんが運営委員に加わった。松崎さんのこれまでの多大な活躍に感謝して、出来ればまた早い時期に復帰して頂ける事を願っている。

—大会終了後はその場で簡単な交流会を行い、和気あいあいの中にも次年度に向けて結束を固めた。(国岡厚子)

### <新役員担務>

代表運営委員	石井和彦	副代表運営委員	上田愛彦	国岡厚子	
事務局長	石原圭一郎	事務局次長	清澄貴之		
評議員	上田愛彦	本部運営委員	石原圭一郎		
広報	上田愛彦	宮中裕子	会員拡大	松本憲治	国岡厚子
争議問題	石井和彦	上田愛彦	あすなろ,MIC	伊藤哲次	
広島交響楽団	伊藤哲次	清澄貴之	会計監査	松崎由起	村田和幸



(逆時表)

定期大会修了



松崎さんありがとう..ケーキ

2013/5/13 中央音楽会 報告 2013/5/13 中央音楽会

<中四国地方本部、新運営委員 上田愛彦>

私、今から30年前、弱冠21歳の年齢で渡欧、ドイツ連邦共和国での6年半の生活は素晴らしい思い出でした。特に今でも忘れられないことは、ドイツに着いて翌日、列車内で見ず知らずの方に「何しに来た」と聞かれ、「私、音楽を勉強しに来た」って返答、そして、「オー！ムジカー！」って駆け出しの私に感嘆符で言われたことは（社交辞令かもしれないけど）とても嬉しかったです。音楽家の存在がとても社会で認められていることに、素晴らしい文化を感じました。

日本はどうでしょう？「大変だね～、好きでなきゃ出来ないよね。」随分と違うものです。しかも昨年広島に帰ってきて未だに同じような、しかもまるで憐れむような目線で同じ台詞を聞かされたときは、やっぱり「音楽家」もっと社会に認められるようになりたいと痛感しました。

18年間音楽大学で勤務をしましたが、若い人たちに「夢が持てない世界になってしまっているのか？」なのでしょうか？本当に音楽大学志望者も激減しています。音楽の職業を奪ってしまう政治家も出てくるようになりました。音楽で生きて行ける環境、少しでも良くなるように、楽器を吹ける年齢もだんだん少なくなっていますが、努力していきたいと思っています。

<編集後記>

3. 19 ユニオンコンサートでトランペットの松崎さんとお弟子さんの若い女性小岩さんがテレマンのデュエットを演奏して下さいました。すごく良かった！大きな松崎さんの側に小柄な小岩さんがひょっこり現れ、顔を真っ赤にするでもなく、ごくごく自然にいともしんそうにラップを吹いてくれたのだ。出てくる音色も音楽もやわらかくて素直、聴いていて本当にほんわりする素敵な演奏だった。これがもしピアノ科なんかだとどうだろう？また数ヶ月前、FMで若いトランペットの人の演奏とトークの番組があった。「僕は田舎に住んでいて音楽の右も左もわからなかったんです。でも僕の先生、松崎先生が『君、プロになれるよ！』って言ってくれて…。それで今の僕があります。」彼のラップも見事だった。しかし、こんな優しい包容力のある先生がどこにいるだろう？ 私自身もあの熊のPーさんのような松崎さんスマイルに何度助けられたことか…

松崎さん、ゆっくり休まれたら是非また運営委員に復帰してください！  
「会議って今日だったっけ？」なんて仰りながらユニオンのドアを開けて下さるのをみんなで心待ちにしています。 (宮中裕子)

Table with multiple columns and rows, likely a financial or administrative record, partially obscured by text.